

ひじりの声 上田 藤市郎

報道技術の発展によって世界の様々な出来事をほぼ同時的に知ることができるようになった。その中には他国の事ながら誠に心が痛む類のものも少なくない。いくつかの国では政府の方針に反対する自分の意見を表現するだけで警察や軍隊に拘束され生命を失う事態が報道されている。日本にもそのような過酷な歴史があった。

しかも、これらの国は、人権擁護の視点から寄せられる他国の声を、内政干渉として拒絶している。権力や軍事力がどのような多数派に把握されるかによって少数派は忍従を強いられる。

藤樹先生が追求していた道徳性、倫理観、良心などというようなものの価値を一顧だにしない集団が形成されると、このような悲劇が生ずる。

つまるところは、人づくり、「有教無類」こそが、最善の策であろう。自分と他人とを本当に大切にしよう。自分な考えを持つ人々が力強く「ことば」で説得することが必要だ。たとえ、「ことば」で立ち向かっても、銃弾に倒れる人々が、今までも無数にいたし、今も倒れている。しかし、「ことば」は、無力ではない。空しく見えても、「ことば」こそが、人の心を動かす。

令和三年度

高島藤樹会総会

六月十三日（日）、安曇川公民館において、総会を（コロナ感染拡大防止のため書面表決へ九十一名）を含め）百十名の出席を得て開催しました。

（事務局）

令和三年度 総会

田中清行会長の挨拶の後、志村洋さんが議長に選出され、議事に入りました。はじめに令和二年度の事業報告と決算報告並びに監査報告があり、承認されました。

次に、報告事項である令和三年度事業計画及び予算が事務局から報告されました。続いて、特定非営利活動法人高島藤樹会の定款の変更に関する件、及び理事の選任の件（青柳小学校校長の土永晶さんが新理事に）が承認され、総会を閉じました。

なお、会員の皆様には、今年度の事業計画等について、再度、総会資料をご参照いただければ幸いです。

引き続き、今年度の藤樹賞受賞者の報告と表彰式が行われ、その後、受賞者の記念講演がありました。

藤樹賞受賞者の報告と表彰式

表彰委員会

藤樹賞受賞者 湊田隆雄様と奥様 湊田良子様様の表彰理由について説明します。

公益財団法人藤樹書院定款の第三条の目的には「近江聖人中江藤樹先生の遺徳を千歳に崇^{とと}うし（あがめ）民徳（人民の道徳）の磨^ま励（礪）」「務め励んで修養すること」「文教「学問や教育によって人心を導くこと」の興隆に資することを目的とする。」とあります。

湊田隆雄さんは、六十一歳で自衛隊を退職された後、八十四歳になられる現在も月に六回程度、良知館に詰めて、藤樹書院の来訪者の希望に応じて解説をされてきています。



良知館ができてから近く二十年になるので、初めは書院の一室に詰めて、来訪者の対応に当たられていました。そのころ、担当されていた方は来訪者への説明は特にならなかつたようですが、良知館ができるのを機に、希望に応じて解説をすることになりました。湊田隆雄さんは、それまでの藤樹先生についての勉強の成果を生かして、解説の教科書ともいべき六十四ページの「ガイドブック『藤樹書院』」さらに、百六十七ページにわたる「別冊 藤樹書院ガイドブック『中江藤樹 生涯と思想』」を作成されました。現在、解説に当たっている皆さんも解説の参考にされています。

そして、湊田隆雄さんの藤樹先生への思いは、二〇〇一年六月に大河ドラマを思い浮かべるような筆致の「天明の人 小説中江藤樹」出版に繋がりました。

そして、現在、十年の歳月をかけて、小説とはまた別の角度から藤樹先生の遺徳を伝える作品を著作中だということなのです。

湊田良子さんは、今から約二十年前に良知館ができて以来現在も、年間約五千人におよぶ来訪者のみなさんがゆつたりと見学や学習ができるように、湯茶の接待などのために月に八回ほど午前午後後に詰められてきました。実は、良知館での最も大きな仕事は湯茶の接待ではなく、